

環境厚生常任委員会

日 時 令和元年5月28日(火)
午後1時30分～
場 所 第3委員会室

1 開 議

2 行政視察の総括について

3 その他

視察先	鹿児島県大崎町 人口 13,051 人 面積 100.67 km ²
視察日時	令和元年5月20日(月) 14:30～
視察等の名称	〇ごみ減量の取り組みについて
視察の目的	<p>大崎町では、住民参加を中心とした27品目分別による一般廃棄物の持続可能なリサイクル事業経営と合わせ、ごみ分別によるコミュニケーションを通じた高齢者・定住外国人との多文化共生コミュニティ形成、リサイクルの概念を活用した環境・グローバル人材育成事業を実施している。こうした取り組みが実を結び、80%以上のリサイクル率を達成するとともに、12年連続リサイクル率日本一を達成している。</p> <p>亀岡市では、ゼロエミッション計画に基づいて、人と環境にやさしい資源循環型のまちづくりを進めているところであり、大崎町の取り組みを学び、今後の環境行政の参考とする。</p>
視察等の概要	<p>〇ごみ減量の取り組みについて</p> <p>「混ぜればごみ、分ければ資源」を合言葉に27品目の分別を実施。80%を超えるリサイクル率(12年連続日本一)を達成。</p> <p>大崎リサイクルシステムのはじまり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大崎町には焼却施設がなく、埋立処分場の残余年数の逼迫が課題となっていた。 ・焼却炉の建設や新たな埋立処分場の建設を検討していたが、建設費や維持費の問題、周辺住民の反対により断念。既存の埋立処分場の延命化に向け、分別ルールの方策・住民への説明に取り組むこととなった。 <p>行政の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・システム(法律)整備 ・分別品目の決定 ・収集したごみの出口(最終処分先)確保 ・ごみ出し日、時間、場所、収集ルートの決定 ・地域リーダーを決めて指導 ・環境学習会の開催 <p>分別を開始する際、150の地域で約450回の説明会を開催。現在でも年1回、150の地域リーダーへの研修会を開催している。</p>

住民の役割

- ・家庭・事業所において、ごみをきれいに分別
- ・分別したごみをステーションで種類ごとに出す

企業の役割

- ・行政の委託によるごみの回収
- ・ごみの検査（検査後は商品として出荷）

大崎リサイクルシステムのメリット

①埋立処分場の延命化

- ・大崎町のごみ量の推移

平成10年：4,382 t →平成29年：708 t
(約84%削減)

②1人当たりのごみ処理経費の削減

- ・平成29年度1人当たりごみ処理事業経費

全国平均：15,500円

大崎町：7,700円

③資源ごみ売買益金の発生（平成29年度：796万9千円）

④雇用の増加

ごみ出し困難者対策事業

- ・ごみ出しが困難な一人暮らしの高齢者や障害者の方などを対象に、分別されたごみを戸別回収する。

リサイクル未来創生奨学パッケージ

- ・住民力によるリサイクル事業から得た収益を活用し、子どもたちが世界各地で活躍し、大崎町に戻ってさらに活躍することを支援するために創設した仕組み。

視察先	鹿児島県志布志市 人口 31,496 人 面積 290.28 km ²
視察日時	令和元年5月21日(火) 10:00～
視察等の名称	〇ごみ減量の取り組みについて
視察の目的	志布志市は、大崎町と同様に市民の協力によるごみの分別の推進により、約80%の埋め立てごみの減量を達成し、埋立処分場の延命化も図られている。焼却を行わず、ごみ分別により埋立ごみを減らす共生協働の先進的な取り組みは「志布志モデル」と呼ばれており、本市の取り組みの参考とする。
視察等の概要	<p>〇ごみ減量の取り組みについて</p> <p>市民の全面的な協力を得て、平成18年から本格的に分別収集を開始。「自分の出したごみに責任を持つ」という意味から、ごみ袋には必ず名前を書いている。</p> <p>確実なごみ出しを行うために、平成18年度に志布志市衛生自治会を組織。衛生自治会は「自分たちの地域は、自分たちで守る」という姿勢をベースに、「①環境学習の実施」「②確実なごみ出しの定着化」「③美化作業の実施」を主な目的として、行政と協働して環境問題に取り組んでいる。市内に居住する人は、それぞれの衛生自治会に加入し、各世帯は、それぞれの決められたごみステーションに資源ごみ、生ごみ、一般ごみを排出し、ごみステーションの管理運営についても各衛生自治会会員で行っている。</p> <p>志布志市の分別収集</p> <p>①資源ごみ</p> <p>平成12年度から月1回収集、各世帯はそれぞれのごみステーションに排出。個人等の都合で各衛生自治会に加入できない世帯や居住する家屋が狭い世帯のために、市営駐車場においても収集している。収集後は中間処理の後にリサイクルされる。</p> <p>②生ごみ</p> <p>平成16年度から週3回収集。各世帯はそれぞれのごみステーションに排出。収集は「第一に自分で処理を、できない人は生ごみだけを分別し、水を切って出す」ことを基本としている。収集後は、草木と混ぜ合わせ「循ちゃん堆肥」を製造している。</p> <p>③粗大ごみ</p> <p>「①粗大ごみ収集場所の景観・安全性」「②リユース・固形燃料(RPF)」「③埋立ごみ減量化」「④出したごみに責任を</p>

持つ」といった観点から平成19年7月から戸別回収を開始。

④一般ごみ

週1回収集。各世帯はそれぞれのごみステーションに排出。回収後は、清掃センターに直接埋め立てる。

小型家電を本格的に回収（平成25年4月～）

- ・資源回収用コンテナに入る大きさのもので、電池又はコンセント電源の電子電気機器を回収（家電リサイクル対象機器は除く）
- ・回収実績
平成23年：404kg→平成29年：61,824kg
- ・環境省「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」ノルマ達成

志布志市のごみ処理経費（平成29年度決算）

○ごみ処理関係にかかった費用 3億5,070万円

○市に分別して入ってきたお金 2,111万円

（収入の主な内訳）

①資源売払い金等 1,285万円

②指定ごみ袋・エコ商品販売 479万円

③有償入札抛出金再商品化合理化抛出金 347万円

- ・年間一人当たりごみ処理経費

全国平均 15,600円

志布志市 11,245円

（収入を勘案すると一人当たり10,568円）

ごみ出しの考え方

①自助

本人もしくは家族の協力による排出

「混ぜればごみ、分ければ資源」

「面倒くさいのススメ」

②共助

自治会等の地域の支援による排出

「同じ時間に教え合って」

「おやっとサービス事業（社協ボランティア）」

③公助

行政支援による排出

「ごみ出し困難者対策事業」

「分別お助け隊事業」

環境学習会の開催

「いつでも、どこでも」をキーワードに、①分ければ資源、混ぜればごみ、②最終処分場の問題、焼却炉の耐用年数、③地球温暖化、④水保全の重要性、⑤安心安全を迫及する農畜水産物、⑥市民の環境に対する取り組みの必要性等をテーマに平成30年度は72件開催。(参加者1,132人)

使用済みおむつの再資源化

平成28年12月に大手おむつメーカーのユニチャーム(株)と地元の(有)そおりサイクルセンターと志布志市の3者で協定を締結し、実証実験及びモデル回収を実施している。令和2年度中の市内全域での分別回収及び再資源化施設の稼働を目指す。

視察先	鹿児島県いちき串木野市 人口 27,833 人 面積 112.30 km ²
視察日時	令和元年5月22日(水) 10:00～
視察等の名称	〇いちき串木野電力について
視察の目的	<p>亀岡市では、平成30年1月31日に「亀岡ふるさとエナジー株式会社」を設立し、地産地消型の地域新電力事業の実施するとともに、その収益を使い、まちづくりに資する新事業を展開している。いちき串木野市では、平成28年2月に「株式会社いちき串木野電力」を設立し、エネルギーの地産地消を基盤として、多くの市民・事業者が活動に参加し、共生・協働で地域課題を解決し、住民福祉の向上につなげることを目的に事業を展開しており、その事例を学び、参考とする。</p>
視察等の概要	<p>〇いちき串木野電力について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年2月19日設立 ・資本金 1,000万円 ・趣旨 <ul style="list-style-type: none"> 電力自由化を機に地域外に出ている消費電力(約30億円)を地域内に取り込み、電力料金軽減だけでなく、住民サービス・地域活性化・災害対応など市民生活の向上を目指す「環境維新のまちづくり」を推進する。 ・手法 <ul style="list-style-type: none"> 公共施設、事業者、一般家庭向けの電力料金を引き下げ、収益の一部を子育て支援・高齢者支援など生活サービス事業に活用する。 <p>はぐくみ応援プラン</p> <p>2歳未満の子どもがいる家庭を対象に基本料金を無料としている。現在の契約数は78件。(いちき串木野市の出生数は年間約200人)</p> <p>公民館運営支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民館に対して、公民館運営費として、年間5,000円を寄附 ・公民館の各世帯がいちき串木野電力と契約すると、公民館支援費として、1世帯当たり年間200円を寄附